

【考察】

本校では、学校教育目標を「自ら学び未来を拓く子の育成」とし、「確かな学力」・「豊かな心」・「健やかな体」を柱に全ての教育活動を行っています。昨年度より「自ら学ぶ」「人とつながる」をキーワードとし、子どもの主体性と社会性を育てていきたいと考えて来ました。アンケートを通し、児童・教職員は「自分はどうか」、保護者には「わが子はどうか」「わが家ではどうしているか」と自己評価し、お互いが自らの取組をふり返り、改善に活かせるようにと考えています。児童１２項目、保護者１３項目・教職員１３項目のアンケートのうち、いくつかを取り上げて考察しました。

１．確かな学力

児童には、「授業が分かりやすい」保護者には、「わが子は授業が分かりやすいと言っている」教職員には、「児童が分かりやすい授業を実践している」という質問の回答から「学習内容の理解」について考察しました。児童・保護者は前期・後期共に約９０％以上が分かりやすいとプラス評価しています。しかし児童の場合、前期に比べD評価が減ったものの保護者同様C評価が増えています。

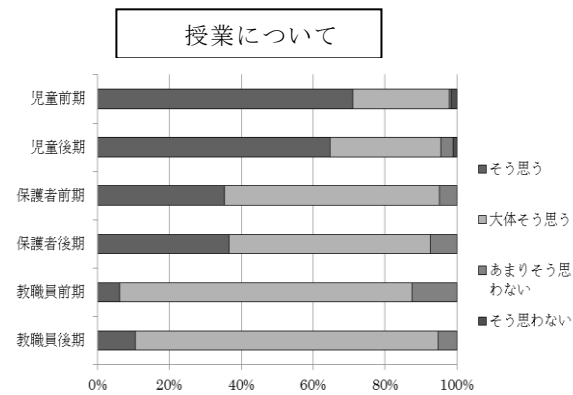
C評価が増えた原因として、両者が前期に比べ後期の方が、また学年が進むにつれて難しい学習内容が増えていると感じているのではないかと思います。

学校では学習指導要領や京都市の指導計画に基づき日々の学習を進めています。教職員は分かりやすい授業を目指し、具体物を提示したり、体験を取り入れたりします。また、コンピュータなどICT機器を活用し、工夫した授業展開にも取り組んで来ました。今後も日々の授業で、まず「めあて」を提示し、児童が「今日は〇〇を学習するのだな」と意識を持って授業に臨むようにしていきます。そして学習内容の定着を目指し、様々な形で「振り返り」をすることを習慣づけていきます。このような取組の繰り返し、児童の確かな学力になると考えています。

また、学校では宿題や自主勉強などを通し、家庭学習の習慣化も進めてきました。家庭学習の手本となるような取組を提示し児童の意欲を高めたり、３年生以上は京都市小中一貫学習支援プログラム（ブレ・ジョイントプログラム、ジョイント・プログラム）で自身の学習状況を確認し家庭学習に活かしたりする取組をしています。アンケートの結果を見ても、家庭学習についての回答は８０％以上の児童・保護者がプラス評価しています。今後も、家庭と連携し、確かな学力に向けて様々な角度から働きかけていきたいと考えています。

２．豊かな心

児童には「友達を大切に仲良くしている」保護者には「わが家では友達を大切にし、仲良くするよう声をかけている」教職員には「友達と仲良くできる学級作りに取り組んでいる」という質問の回答から「人に対する思いやり」について考察しました。後期もほぼ１００％に近いプラス評価がありました。学校では年４回、児童にじめや友達関係の事でアンケートを取り、「先生と話そう月間」として、そのアンケートを基に担任が全児童と個人面談をしたり、個人懇談会で保護者に児童の様子を伝えたりする取組をしてきました。



また機会があるごとに児童が友達の良いところや頑張ったところを見つけカードに記録したり、道徳の授業を通し、自己を見つめたり、相手を尊重したりする学習を積み重ねてきました。プラス評価が高いのはその成果だと考えます。

その他にも、２年目を迎えた縦割りグループ活動「つながりタイム」では６年生がリーダーとなって低学年の様子や気持ちを考え活動を進めました。６年生の活躍で異年齢の児童が仲良く過ごす微笑ましい様子が見られただけでなく、自分もこんな６年生になりたいと思う低学年の児童の姿が見られました。今後も、大原野の地域・豊かな自然を活かした「米作り」「お年寄りとの交流」など現在各学年が行っている取組も含め、益々自分や相手との関わりを大切にする学習や活動を計画的に進めていきたいと思います。

３．健やかな体

児童には、「学校でも地域でも安全に気をつけて行動している」保護者には、「子どもが安全に気をつけて行動できるように声かけをしている」教職員には、「児童が安全に行動できるように働きかけている」という質問の回答から「安全（命を守る）」について考察しました。児童も保護者もA評価が多いだけでなく９５％以上がプラス評価でした。児童の評価が高かった理由として、登下校時の地域の方・PTA役員の方の声かけがあったり、児童会などによる安全や交通ルールについて確認する機会が多かったりしたことが考えられます。

本年度も学校では児童の健康だけでなく安全も重視し、緊急時に備えての「引き渡し訓練」、１年生の「交通安全教室」、２・３年生の「自転車教室」、４年生の「免許証交付自転車教室」、地震・火災・不審者に対する「避難訓練」などを実施しました。今後も様々な機会を通して、安全に行動することは自分の体や命を守るだけでなく、周りにいる人の体や命を守る事になることを伝えていきたいと思います。

その他として、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）についてマイナス評価した児童の数が少し増えました。７月上旬に実施した生活アンケートでも、数は少ないですが、低学年に朝食を食べない、就寝時刻が午後１０時台もしくはそれ以降と回答する児童がいました。今後は児童に基本的な生活習慣の必要性を伝え、自覚を促すだけでなく、保護者の方にも協力いただき、児童の健やかな成長について心がけていきます。

４．学校運営協議会より

- ・大原野の児童は朝からしっかりと集団登校している。また、朝の挨拶もはきはきとしている様子を見かける。まなび教室では学年を問わず遊んだり、教え合ったりしている姿に気持ちが和んだ。
- ・今年「米作り」の活動では、天候に左右され、田の状態が悪かったが、児童は鎌の扱いなど気を付け、安全に活動できた。ゲストティーチャーの話も素直に聞く様子が見られた。
- ・自転車教室や地域のお年寄りのとの交流、ケナフの栽培等、実際に体験する機会があるのは大変良いことである。これからも体験を通し色々と学び取って欲しい。
- ・運営協議会委員は６委員会に分かれて様々な形でこれからも大原野の教育活動に協力していく。教職員も児童が色々な場面で活躍できる機会を作って欲しい。
- ・１年間の成果や京都市小学校「大文字駅伝」大会２年連続出場などから、大原野の良い環境と地域力を活かした教育活動が出来ているように思う。今後も大原野中学校ブロック３校の活性化に学校運営協議会委員と教職員が力を合わせ取り組んでいきたい。

